

## 画家、ニシオ・トミジしよぎょうさんの所業

「何も描かない絵」と2000点の静物画

ニシオ・トミジさんは50年描き続けてきた鳥取の絵描きさんです。今度開かれる地元の展覧会に「何も描かない絵」を展示するのだそうです。展覧会に足を運んで来た参観者は様々な絵描きさんの絵を順番に観ては心を遊ばせ、いい絵の前に来れば楽しんだり苦しんだり感情を動かし、共感していくことでしょう。さて、次に「何も描かない絵」の前に立ちます。いくら観ても何も描かれていません。観る人は困りますね。みんなどうするでしょうね。ニシオ・トミジさんはそんな困った絵を出品することについていくらかの逡巡の後、決心されたそうです。

「そのころは」と聞くと返事はこうでした。

タイトルには「さわってみてください」と付けてあります。ニシオ・トミジさんは、参観者が絵の前で困る顔をしている姿を見て楽しむような品格の人ではありません。困ったら絵を触ってみてください。さわればすべすべした画肌の触覚や目に見えないカンバスの起伏も感じられることでしょう。何も「ない」と見えて実は全感性を動員すれば何か「ある」のです、と。そうです、ニシオ・トミジさんはこの世の出来事のことを言っているのです。この世は「有」と見えて実は「無」ですよ、何もないとみえても実は有るし、反対に有ると見えてもじつは無いのと同じです、「有」も「無」も同じことです。そう般若心経に書いてありますね、ただ、ニシオ・トミジさんは絵描きさんですからそれを画面で表現するのです。

こんなことも言われてました。触ると人の汗や脂が付きますね、沢山のひとが次々に触ると垢じみてきて最初の真っ白に磨きあげられた僕が作った絵の姿は、最後にどんな姿に造られるのか、それは楽しみですと悪戯っぽく笑われるのです。

「何も描かない絵」のニシオ・トミジさんは一方で、こんなこともされています。毎日、一枚、実物大の静物を葉書サイズにかくのです。もう4年の月日が経ちますから1700点を超え、やがて2000点になります。野菜や文具、魚や果物、草花、人々の人生の苦楽の故郷であるこの現世のありとあらゆる小さな日常的なものどもの姿に眼を見開いてすべて残らずその生命を掬い取らんとする仕事です。「何も描かれていない絵」の展覧会も体験してみたいものですが、2000点の静物画が一堂に展示された時の会場には一体どんな世界が出現するのか興味津々です。ニシオ・トミジさんの所業は未来をはらんで現在進行形なのです。



赤い椿  
白い椿  
と落ちにけり  
碧梧桐

「椿・落ちてなお輝くもの」展

予告

二〇〇八年二月

